

# 經濟論叢

第100卷 第3号

## 中谷實教授記念號

---

献 辭 .....	出 口 勇 蔵	
貨幣理論における投資・貯蓄接近法 .....	菱 山 泉	1
ファイフェルの信用創造の概念 .....	金 森 恒 利	21
金融仲介機関に関連する諸問題 .....	岩 根 達 雄	41
中国における定息について .....	三 木 毅	56
ミルトン・フリードマンの 「貨幣数量説」について .....	石 川 常 雄	75
貨幣数量説の再検討 .....	島 津 亮 二	99
物の流れと資金の流れ .....	鎌 倉 昇	116

中谷 實 教授 略歴・著作目録

---

昭和42年9月

京 都 大 學 經 濟 學 會

## 献 辞

本会評議員、中谷實教授は、本学の定めるところにしたがって、来年3月に退官されることになった。御退官を記念して編集されたこの号の巻頭に教授を送ることばを記すことは、わたくしの光榮とするところである。

省みると、中谷教授は昭和3年に本学を卒業されて、その年に金融論の研究をこころざし、汐見教授を指導教授とあおいで大学院に入学せられた。翌年から講師として学部の教壇に立たれ、それ以来40年の永いあいだ、研究とその成果の発表と授業と後進研究者の指導とに、わき目もふらずに、力を尽されてきたのである。教授への御就任の時は財政学講座を担当されたが、その後間もなく経済学第4講座にうつられ、名実そろった教授の職責をになわれることになった。その間には、本学の評議員として、また昭和31年には経済学部長として、学部の内外の行政をつかさどり、温厚な人格によってはたされたその功績は顯著なものがあつた。

本誌に発表された研究の成果は数多く、着実なその研究は、わが国の金融理論の研究水準を高めるにあずかって力があり、教授が学位を取得されたときの論文「貨幣供給の理論」には、本誌に掲載された諸論考がその内容の1部になっていると考えてよい。そのような成果を生んだ教授はわが国の金融学界の重鎮の1人である。他面において、教授は学生の研究指導に懇切な熱意をかたむけ、教授のゼミナールからは、実業界や学界に前途有為の人材が輩出している。この意味において、教授はその職責を十二分にはたされたということができよう。

教授はなお健康にめぐまれ、見るからに若わかしい。われわれが近く教授を評議員の中からうしなうことはまことに残念であるけれども、教授にはこれを研究生活途上の1つの区切りとして、ますます研究をすすめられ、われわれ後進を御誘掖くださらんことを期待して、記念号に冠する辞としたい。

昭和42年9月

評議員長 出口 勇 藏